

京都芸術デザイン専門学校入学式祝辞

2015年4月4日

尾池和夫

本日、京都芸術デザイン専門学校に入学された180名の皆さん、また、専攻科に進学された7名の皆さん、おめでとうございます。ご家族の皆さま、ここからお祝い申し上げます。専門学校の他に、学校法人瓜生山学園には京都文化日本語学校があり、京都造形芸術大学があり、こども芸術大学があります。学園には今、3歳から95歳まで、約1000人の学生がいます。相互に大いに交流していただきたいと思います。

今年入学された方々には京都滋賀のご出身が多いのですが、さらに南は沖縄から北は新潟からと、広い地域から集まって来られ、また海外からの留学生も、台湾をはじめさまざまな地域から入学されました。

皆さんが入学されたこの専門学校のある京都は、1300年に及ぶ悠久の歴史を持つ大都市であり、長い間、日本の都がおかれていました。古都であり、しかも今でも発展を続けているという世界的に見て珍しい都市です。さらに、都でありながら、城壁を持っていないというのも世界的に見て珍しい都市であります。京都滋賀の出身の方たちも含めて、専門学校に入学したことを記念して、京都の街をあらためてよく観察しながら歩いてみたいと思います。

例えば四条通は、松尾大社から八坂の石段下までです。松尾大社の本殿は東向いて四条通をまっすぐ見通しており、その本殿の背後の崖は、西山断層の運動で生まれた崖です。四条通の東端の石段は、八坂神社の西楼門に登って行く石段です。八坂神社のある円山公園の枝垂桜の仲間である桜の若木が、瓜生山学園の大階段の途中で新しく植えられて、今花を咲かせています。円山公園のある東山の麓が、やはり断層運動でできた扇状地です。

京都盆地は、北山、東山、西山の自然の要塞で守られた盆地であり、そこに都ができました。盆地には分厚い堆積層が発達し、豊かな地下水が蓄えられています。その地下水から京都の文化が生まれて、古都の文化の蓄積となりました。

皆さんの仲間である京都造形芸術大学では、今、「デザインを育てる」という課題を掲げて議論しています。議論のきっかけは、Dアンドデパートメントを経営するナガオカケンメイさんが、仏光寺の境内に大学の店を開き、いつの時代も変わらない価値のある普遍的なロングライフデザインを、その店に置いたことです。

また、大学では、現在「瓜生山春の顔見せ」で、デザイン系学科教員36名による展覧会が開催されています。皆さんもぜひそれを見て、大学との連携を大いに活用してくださいようお願いします。

皆さんのこれからの仕事の中でも、この1300年の歴史に育まれた古都の文化を大いに取り入れながら、一方では失敗を恐れることなく、新しいデザインに挑戦してほしいと思います。その学園生活の中で、瓜生山学園の仲間と交流し、さらなるチャレンジを目指すときには、大学への3年次編入学の機会を利用し、また通信教育部も将来活用していただきたいと思います。学園にはサークル活動などの環境が整備されています。また専攻コース間の連携による活動も大いに利用してコミュニケーション力を育ててください。

毎日、学食での朝食も利用してほしいと思います。朝食で糖質をしっかりとっていないと、脳が指令を出して体を寝かせて、脳の栄養を確保するという仕組みがあります。したがって、午前中の活動を活発にするためには、朝食をしっかりとることが必要です。学食までの大階段を昇って足腰を鍛え、芸術とデザインを学び、しっかりと人生を設計して就職を目指す、そのような学園生活を愉しんでいただくようお願いして、瓜生山学園の仲間からの、お祝いの言葉といたします。

ご入学、まことにおめでとうございます。

ありがとうございました。